

令和7年度 江戸川区立新田小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> よく考える子 思いやりのある子 体をきたえる子 	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> 子供の笑顔があふれる学校 自ら考え、主体的に判断し、行動する児童 「チーム新田」の一員として、互いに同僚性を高め合える教師
前年度までの本校の現状	成果 <ul style="list-style-type: none"> 週1回のパワーアップタイムにより、基礎学力向上に努め、4、5年生でCD層を減少させた。 年に7回の研究授業により、令和型授業に向けた基礎作りを行うことができた。 障害理解教育の実施、新田ルームの活用により、必要な児童や学級に支援を行った。 	課題 <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着 国語の力（読みとる力）の育成 子供たちが主体的に考える交流の実施 支援を要する児童、学級への学校支援体制を整える。 	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○基礎基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> パワーアップタイムを週に2回に増やす。宿題で自主学習を増やし、意欲的に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 診断テストでCD層割合を低5%高5%減少。宿題に意欲的に取り組む児童70%以上 	B	B	B	パワーアップタイムは2回実施し、学年の実態に応じて内容を工夫している。宿題は取組に差が見られるので、改善を図る。	B	子供たちの学力を高めることはやはり大切である。それぞれの子供たちが意欲的に学べるようになってほしい。	B	2年生以上で自主学習の宿題を行った。75%が意欲的に取り組んでいる。事前に内容を把握する等の工夫が良好であった。	A	学校全体で基礎学習を高めるために取り組んでいくことは大切で、継続していくことが必要である。	宿題については、自分で考える取組の定着を図れるよう工夫していく。
	○授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究や年に2回の授業観察、教育課題推進校の取組を通して、令和の新田型授業スタイルを確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童へのアンケートで80%以上の児童が授業が楽しいと回答 	B	A	B	授業観察では、全学級で児童が主体的に取り組むために思考ツール等を活用して授業を行った。2学期に研究授業で深めていく。	A	忙しい中ではあると思うが、授業は子供にとって大切なので、これからも改善を図ってほしい。	A	「授業が分かる」に肯定的な児童が88%であった。新田型授業スタイルの確立については今後も継続していく必要がある。	A	「授業が楽しい」と「授業が分かる」はイコールではないが、学力向上には寄与していると思う。	国語だけでなく、新田型の授業を様々な場面でできるようにしていく。
	○読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 「読書科ノート」を活用した探究的な学習を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みに5、6年児童が、調べる学習に取り組む。 	A	B	B	夏休みに5、6年は調べる学習に取り組んだ。読書科授業における探究学習を全学年で進めていく。	B	タブレットばかりでなく、本に親しむことは大切である。本好きな児童を増やしてほしい。	C	5、6年生が調べる学習には取り組めたが、「読書科のノート」の活用に関しては課題が残った。探究意欲の増進も含め課題である。	B	読書好きな子をどうしたら増やせるのか、家庭も一体となって考えていくことが必要である。	読書科ノートの活用の仕方について講習会を実施する。読書科部の充実を図る。
体力の向上	○体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回のなわ跳び週間を実施する。週1回の新田プレイタイムの実施と改善 	<ul style="list-style-type: none"> 児童へのアンケートで80%以上の児童が休み時間に外で遊ぶのが好きと回答 	A	A	A	なわ跳びや新田プレイタイムではたくさんの児童が意欲的に体を動かすことができた。	A	なわ跳びや外遊びを積極的にする児童が増えることは体力向上に向けて良いことだと思う。	A	「外で遊ぶのが好き」に肯定的意見の児童89%であった。縦割り班の活用など、工夫して実施することができた。	A	新田小の特徴である行程が広いところを活かして体力向上につなげてほしい。	体を自主的に鍛える児童を増やす取組を行なえるよう、内容を工夫していく。
	○個に応じた体力向上のための取組の実施	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストにおける弱点項目に焦点を当てた運動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストにおける昨年度の弱点項目の数値を5%向上させる。 	A	A	B	昨年度の結果をもとに、苦手な運動の向上に努めたことで、数値が5%以上上げることができた。全ての学年に広げていく。	A	テストなどの結果をしっかりと活かすことは良いことである。	A	反復横跳びとボール投げに焦点を当てた運動集会を実施した。工夫した内容で子供たちが意欲的に取り組んでいた。	A	児童の実態に合わせて行うのは良いと思う。できる子たちへの視点も忘れずに行なってほしい。	今後も学校の体力における特徴を把握したうえで、的を絞った取組を行っていく。
	○歯磨き指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校での歯磨きとフッ化物洗口の充実を図る。虫歯治療の必要性を年に2回伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 虫歯の割合を昨年度比で5%減小させる。治療率を5%上げる。 	B	B	B	昨年度からの取組であるため、歯磨きとフッ化物洗口は定着してきている。	A	毎日継続することが大切だと思うので、今後も継続をお願いしたい。	B	学校全体の虫歯率は昨年度比で3.6%減であった。学年による差があるので、的を絞った指導も行っていく。	B	各家庭がしっかりと行うことが第一であると思う。学校で補うことは良いことだと思う。	歯磨きの仕方などに差もあるので、家庭を巻き込んで指導を行っていく。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○通常学級とうみかぜ学級、副籍交流及び共同学習の実施充実	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 通常とうみかぜ学級は各行事で実施 副籍交流は学期に1回実施 	B	A	B	各行事における交流は実施している。さらに互いに仲を深めるため、共同学習を実施していく。	B	様々な場面で当たり前のようと一緒に取り組むことが大切だと思う。そういう場を増やしてほしい。	B	低学年において生活科などで積極的に共同学習を行うことで子供同士の積極的な関わりが見られるようになった。	B	日常の中に一緒に普通に取り組めることを増やしていくことが必要である。	児童の実態に応じた日常における交流を積極的に行っていく。
	○エンカレッジルームの活用促進	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援委員会において、支援が必要な児童の共通理解を図り、組織的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて計画的な組織対応を計画し、実行する。 	A	A	A	支援を要する場面が多かったがエンカレッジ担当が支援に当たった。支援方法を支援委員会等を活用して組織的に考えた。	A	個別の支援が必要な児童が増えていると聞く。大変だと思うが子供たちが安心して過ごせる場にしてほしい。	A	支援委員会で組織的に対応することで、支援方法を考え、組織的に対応することができ、様々な支援を行うことができた。	A	支援体制をしっかりと今後も整えてほしい。	さらに良い支援を行うために、今以上に組織体制を整えていく。
	○障害理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> 障害理解に関する教員への研修会の実施と児童への障害理解教育授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 研修は年2回、障害理解教育授業は低学年と高学年で1回実施 	A	B	B	3年生において理解教育授業を実施した。今後、他学年でも必要に応じて実施する。	B	障害等を理解することはとても難しいことであるが、交流も含め、継続してほしい。	B	予定していた学年ではなく、必要としている学年で理解教育を実施した。	B	理解教育は特定の時間だけでは難しいことも多いと思う。日常での関りが大切である。	様々な状況を考えて必要な理解教育を考えて行っていく。
不登校・いじめ対応	○児童理解の充実	<ul style="list-style-type: none"> L-GATE、定期的な情報交換、児童理解のための研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 児童へのアンケートで90%以上の児童が学校が楽しいと回答 	A	B	A	L-GATEを5月中旬から開始し、児童理解に活用している。情報をしっかりと引継ぐ形で情報交換会も2回実施した。	A	子供たちのことを理解するための取組はよい。家庭、地域、学校がしっかりと連携してほしい。	B	肯定的意見の児童が91%であった。L-GATEの運用において工夫をしたが、活用において課題が見られた。	B	子供たちがより安心して過ごせるように、今後も子供たちの理解に努めてもらいたい。	今後も様々な方法で児童理解に努め、楽しく安全な学校づくりに励んでいく。
	○道徳授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 全学年、年3回のいじめに関する授業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 児童へのアンケートで100%の児童がいじめは絶対にいけないと回答 	B	A	B	学年ごとに計画的にいじめの授業を実施している。学校全体でもいじめがいけないという話を定期的に行っている。	B	いじめに対しては、絶対にいけないという思いがあるので、全ての機関が連携して対応していく必要がある。	B	「いじめは絶対にだめ」に肯定的な児童が94%であった。いじめに対しては組織として早期対応を行うことができた。	B	いじめを無くすことは難しくても減らしていくことはとても大切なことである。	早期対応以外に、未然防止に向けての取組をさらに行っていく必要がある。

心の充実	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーその他関連機関との連携強化	・不登校児童がいる場合は、関連機関との連携率100%	A	A	A	SC、SSW、児童相談所、未来サポート教室等との情報交換を必要に応じて行い、指導に生かすことができた。	A	専門の方と協力して子供たちのために取り組んでいくことはとても良いことである。	A	ご家庭の希望に沿って関連機関と連携をとることができた。スクールサポーターも活用することができた。	A	これだけ価値観が多様化している中で、それに合わせた対応は難しいと思うが、少しでも支援できるようにしてほしい。	児童にとって何が必要かを見極め、適切な支援を今後も行っていく。
学校（園）の地域社会に開かれた実現	○学校ホームページの活用	・学校ホームページの更新	・毎日更新を行う。	B	B	B	日によってあげられる情報量に差はあるが、行事等を中心に学校の様子を伝えている。	B	学校行事予定は素早く掲載してほしい。ホームページが見る度に更新されているのは良いことである。	B	日によっての更新量の差は解消できなかった。日常での様子を積極的に伝えていくことが必要である。	B	毎日ではないが、HPを見ている。給食のメニューだけでも学校の様子を知ることができるのは良い。	日常の様子もホームページで積極的に伝えていく。
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者のアンケート結果を伝え、学校改善を図る。	・2学期にアンケート実施、3学期に結果と今後の方針を伝える。	B	A	B	学校評議員の皆様へ学校関係者会議や行事等で学校の様子を伝えた。日常的に改善のための助言を受けられる機会を鶴やしたい。	B	なかなか学校のことを知る機会が少ないので、評議員会以外でも学校の様子を知る機会を増やしていかないといけない。	A	児童アンケートと保護者アンケートを実施した。出された意見を参考に教育課程を作成することができた。	A	今後も学校評議員としてできることをやっていきたい。	アンケート内容を吟味しより良い学校づくりに生かせるようにする。
	○学校公開の充実	・運動会、展覧会も含め、年5回の学校公開の実施	・保護者へのアンケートで80%の保護者が学校は適切に公開を実施と回答	A	A	A	運動会、学校公開を3回実施している。保護者の方に日常の様子を伝えられるよう、説明会も実施した。	A	学校公開は保護者や地域の方が学校の様子を知るために必要であるので、今後も日常の様子を伝えられるようにしてほしい。	A	学校公開では、テントの使用、振替日の設定等必要に応じて変更した。アンケートは99%が固定的意見であった。	A	学校を支援できる体制を整えるためにも、学校の現状を伝えていくことは必要である。	日常の子供たちの様子を伝えることができるような公開を目指していく。
教育の特色ある展開	○個性を認め合える児童の育成	・児童が主体的に取り組める活動の充実。「ほめる」を意識した教育の実施。	・児童アンケートで70%以上の児童が「自分が好き」と回答	B	B	B	各クラスでほめるを意識した活動を実施している。児童が良さを自然に認め合えるよう継続していく。	B	自信をもてる、自分を大切にできるために、活躍の場をどんどん増やして行ってほしい。家庭との連携もしてほしい。	B	72%が肯定的な意見であったが、様々な場面で自信がない言動も見られた。もっと個性を認め合える活動に取り組んでいきたい。	B	自分が好きでないと他人のことは考えられないと思うので、子供たちが自己肯定感を得られるようにして行ってほしい。	自己肯定感や有用感を高める取組をさらに工夫することで、児童が良さを認め合えるようにする。
	○SDGs、人権の花、ポートフォリオ、クリーンデイ、グリーンプランの充実	・特色のある教育部を立ち上げ、学校全体で意識して活動を行い、充実を図る。	・特色のある教育に意欲的に取り組む児童が80%以上	B	B	B	4年生は、SDGsを意識して古着を集めて配る活動に取り組んでいる。3年生はやごの救出を行った。	B	子供たちが考え、SDGsを行うことはとても素晴らしいことである。全ての学年で取り組んでほしい。	A	学年に差は見られたが、多くの児童がSDGsに意欲的に取り組めた。各学年でさらに高めていきたい。	A	新田小ならではの特徴を今後も大切にしていきたい。	全校で児童が主体的にSDGsに取り組めるよう内容を工夫していく。
	○働き方改革の推進	・毎週水曜日に授業準備を行える時間を設けるとともに定時退勤日とする。	・年間25回以上水曜日に授業準備の時間を設ける。水曜日定時退勤率80%以上	B	B	C	水曜日に急な会議が入ることがあった。できる限り、今後は授業準備時間を確保できるようにする。	B	今の時代に合わせた働き方を学校現場も行っていく必要がある。	B	全体としては退勤時間の縮小を図ることができた。今後は意識改革を図り、働き方改革に取り組んでいく。	B	様々な取組を通して、働き方改革を進められるようにしてほしい。	カリキュラムマネジメントの意識を高めることで授業時数の確保を行い、働き方改革につなげる。